



第6章 緑の将来像

第6章. 緑の将来像

1. 将来像

緑からみた神戸の都市特性、これまでの緑の歩みなどを踏まえると、神戸は3つのゾーンで構成されます。

神戸における緑の将来像は、それぞれのゾーンの特性に合わせた緑の施策を展開し、水と緑のネットワークの形成によって各ゾーン間が有機的につながるとともに、協働と参画による人と緑の関わりによって、市民みんなでそれらの緑を支えることで、まち全体がいつまでも豊かな水と緑に包み込まれたまちをめざします。



将来像の概念

このようなまちづくりを進めていくためには、これまでの経済性や利便性を追い求めるライフスタイルを見直し、緑との共生関係を確固たるものとして、地球環境にやさしい都市構造や生活環境を築き上げる必要があります。

私たちは神戸が50年、100年後も緑が豊かで輝いている都市、生命に満ちあふれた都市であることを願い、

「緑とともに永遠に生き続ける都市＝緑生都市」

を緑の基本計画の理念として継承します。

みどりのゾーン

(1) みどりのゾーン ~いのちをまもり育む緑~

六甲山をはじめ神戸の骨格となる森林を市民みんなで守り育てることによって、自然災害から市民の暮らしを守り、これまでのように市民の心を癒し続ける存在であるとともに、生き物の多様性をはじめとする地球環境にやさしい、緑豊かなゾーンをめざします。

まちのゾーン

(2) まちのゾーン ~彩りと潤いのある緑~

六甲の山々と瀬戸内海に抱かれたまちの中を、山と海からの爽やかな風が、川やみちを伝って通りぬけ、震災の教訓を活かした安全で快適なまちが緑で育まれるとともに、都心や神戸の玄関口では、風格ある木々や美しい花々に彩られた神戸らしい洗練されたまちをめざします。

緑地や自然の川、田園などの自然環境に囲まれた緑豊かな郊外では、生活空間の中にある身近な公園や空地、街路樹、花壇、庭などを、住民が協力しながら守り育てていくとともに、一人ひとりが安全で安心して緑に親しむライフスタイルを享受できるようなまちをめざします。

神戸港の歴史や、須磨・舞子に広がる自然環境・景観を大切に守りながら、緑に彩られたデザイン性に優れたオープンスペースの創出によって、新たな憩いや賑わいが生まれ、歩いていて楽しくなるような魅力と活力あるまちをめざします。

田園のゾーン

(3) 田園のゾーン ~実り豊かな緑~

北区や西区の都市近郊に広がる農地・里山・集落などにおいて、生物多様性に配慮して自然環境を保全・育成するとともに、都市と農村の交流や拠点となる場づくりを通して、農村地域のコミュニティが活性化されることによって、豊かな実りや美しい農村景観、人と人、人と自然との交流が享受できるゾーンをめざします。

ゾーンのつながり

(4) ゾーンをつながり ~水と緑のネットワーク~

海、まち、川、山、田園においてそれぞれが持つ特徴的な自然環境を緑や人の営みを通してつなげることによって、神戸のまち全体で様々な生き物を育むとともに、神戸らしい景観をつくり、快適さとゆとりと潤いのあるまちをめざします。

協働と参画

(5) 協働と参画 ~みんなで支える緑~

3つのゾーンにおける緑との関わりを通して、震災を機に育まれた人と人とのきずなをさらに強固なものにするとともに、社会全体で神戸の緑を守り育てていくことで、未来にわたって豊かな緑が受け継がれていくようなまちをめざします。

2. 「緑生都市」の実現に向けた目標

緑の将来像を実現するための目標と、その達成状況を測る指標を以下のように設定します。

(1) 目標設定の考え方

森林や田園、水辺、まち中の公園や街路樹、社寺林など、これまで市民みんなで育ててきた様々な緑の資産について、その総量を大切に守っていくといった緑の量に着目した目標を定めます。

また、市民にとっての緑の満足度や様々な緑に関する活動への参加状況など、生活実感が反映されるような緑の質や人との関わりに着目した目標を定めます。

(2) 目標

① 市域内の貴重な緑を未来へ継承すべき市民共有の資産と位置付け、

永続性を持たせ大切に守り育てていきます

神戸の緑は、主に六甲山系をはじめとする森林や西北神に広がる田園、そして市街地の中の街路樹や公園緑地等からなります。これまでの歴史の積み重ねの中で大切に守り継がれてきた緑をかけがえのない市民の財産として永続性を担保する手段^{※1}を講じて守り育てていきます。

指標	目標値
市域における永続性のある緑地の面積 ^{※2}	35,000ha 以上

※1 永続性を担保する手段とは、緑を法律や条例等によって保全したり新たに創出するもの。

※2 市域における永続性のある緑地の面積とは、市街化調整区域における「みどりの聖域^{*}」や「人と自然との共生ゾーン^{*}」等における地域性緑地と、主に市街化区域における公園緑地等の施設緑地との総和

② 潤いのある市街地を形成するために、まち中で3割以上の緑を確保していきます

まち中では、公園や街路樹など公共空間をはじめ、住宅地や事業所、社寺林など民有地の緑も重要な役割を担っています。これからもこうしたまち中の貴重な緑を大切に守り育てていくとともに、緑の少ない地域では、公共オープンスペースの確保や民有地の緑化など新たな緑の創出に取り組むことで、まち全体の緑の確保を図っていきます。

指標	目標値
まち中における緑の面積の割合 [※]	3割以上

※市街化区域における緑で被われた面積の割合

※市街化区域の緑被率は地域や土地利用によって差異が大きいことから、今ある緑は大切に保全・育成するとともに、緑の少ないところは今後重点的に緑化していくことで、3割以上の緑を確保していく。

③満足度の高い良好な緑を育てていきます

身近にある様々な緑もただ単に量が多いただけでは良好な緑とはいえません。できるだけ多くの人に満足していただけるよう美しく、快適で、質の高い緑をめざします。

指標	現況値	目標値
身近な緑に満足していると感じている市民の割合※	21.9%	現況値以上

※市政アドバイザーへのアンケート調査による数値

※「満足」、「どちらかといえば満足」、「どちらかといえば満足していない」、「満足していない」の4段階の内、「満足」の割合を指標とする。なお、「満足」のみが21.9%、「どちらかといえば満足」を含めると70%。

④人と緑との関わりを深めていきます

神戸では、古くから市民と協働で身近な公園やまち中の花壇の管理、森林の手入れなどが行われてきました。これからも人と緑との共生関係をさらに深めていくために、緑に関わる地域住民やボランティア、NPOなどの活動を増やしていくとともに、事業者や明日を担う子どもたちなどの幅広い参加を促すことで、様々な場面での協働による緑の取り組みを活発にしていきます。

指標	現況値	目標値
緑に関する活動に参加している市民の割合※	28.7%	現況値以上

※市政アドバイザーへのアンケート調査による数値

